

# 協会の活動

発行:一般社団法人栃木県老人保健施設協会広報委員会

## 令和3年度 特別委員会 第1回職員研修会

- 日時：令和4年3月9日(水)13時55分～16時
- 会場：Web会議システム「Zoom」

まん延防止等重点措置が延長されている中、今回もWeb研修会となりましたが、多数の施設の方々に研修会に参加していただきました。今回は介護クリエーターとして様々な活動を行い、目の前のお年寄りを輝かせて自分も輝くという実践的な介護論を提唱されている横木淳平先生から、「介護3.0」をテーマに介護の本質を掴む捉え方についての講義を賜りました。

介護3.0とは、最期を迎えられる本質的な介護が当たり前の世界を目指すことであり、その人らしい生活を取り戻すきっかけになる介護をしていきたいと思います。実践するためにその人の個性やできることに目を向け、ご本人の夢や希望を叶えることで、お世話をする介護から介護のプロフェッショナルとしてその人らしく最期まで生きられるという介護になるということでした。

捉え方を変えると日常の動きが変わる。利用者が目標を持って生活したり、やりたいことをやるなど、生

活全体を見ることでその人の生活レベルを上げることができ、職員もそのほうが楽しく仕事ができるようになるというお話でした。

横木先生の作られた施設やカフェ等は、お年寄りやそのご家族はもちろんのこと、地域の人々も訪れたいようなとても魅力的な場所に感じました。そして、職員の自主性を大切に、利用者も職員もやりたいことができる環境は、とても居心地が良い空間なのではないかと思います。

講義の最後には質疑応答の時間が設けられました。職員からの意見はどのような場面で出てくるのか？利用者の夢の引き出し方やマニュアル等に関連する質問が出ました。積極的に質問される参加者に真摯に回答していただき、有意義な研修は終了となりました。

今回の研修で難しそうに思えるようなことも、見方を変えたり工夫したりすることで、状況は変えられることが改めて認識できました。これは、日常のいかなる場面でも通用することだと思います。目の前のお年寄りが笑顔で元気になるのを喜ばない介護職員はいないと思うという言葉は、この研修の趣旨であるコロナ禍でストレスが溜まる日々を過ごす中、仕事に対するキラキラした気持ちをもう一度思い出してほしいという思いに通じており、いつまでも初心を忘れず日々仕事に邁進していきたいと思いました。

